

質問1 球磨川河川整備計画において、 なぜ瀬戸石ダムの記事がないのか

治水協議会及び学識者懇談会でも瀬戸石ダムについて
触れられていない 単語さえ出てこない

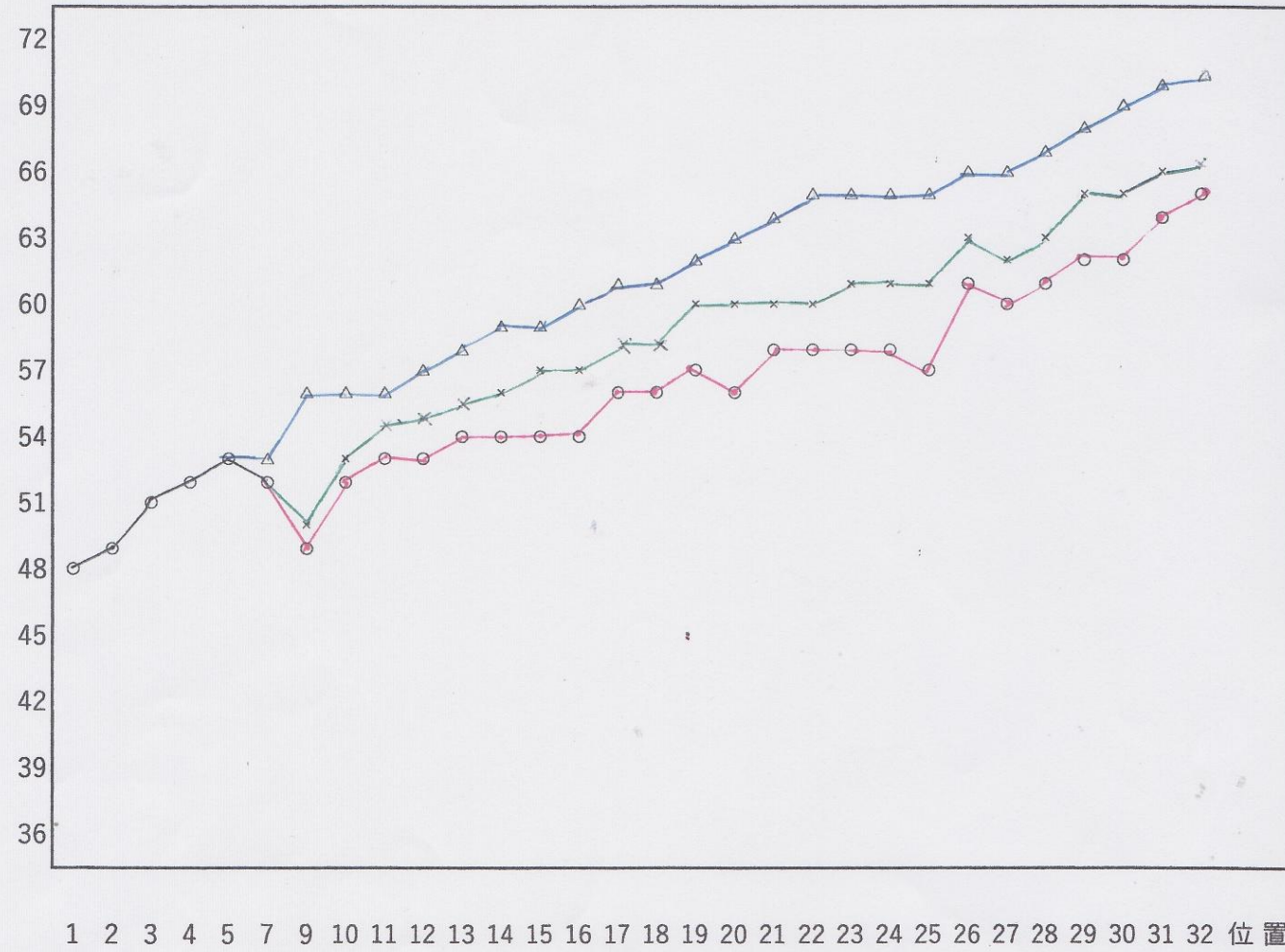
令和2年洪水において、瀬戸石ダムがなければ
洪水位を6.0m低下させることができた
犠牲者を出さず、浸水被害を軽減できた

八代市在住 南 由穂美



水位標高グラフ

標高



- △ 国土交通省報告水位
- × 前回計算水位
- 撤去後計算水位

	地点距離程			
地点名	距離程	報告水位	計算水位	低下水位
瀬戸石ダム	28k861	52.737	50.326	-2.411
神瀬	35k600	64.868	58.59	-6.278
簸瀬	36k000	64.448	57.653	-6.795
白石	38k000	68.451	62.804	-5.647
小口	39k600	71.354	65.712	-5.642
漆口	41k000	73.913	68.949	-4.964
球泉洞駅	43k200	77.122	70.625	-6.497



3 9 k 600 小口

5.6m 低下
7.6m 道路上
2.0m 道路上



6.4m 水位低下
5.3m 道路上
1.1m 道路下

4 3 k 600 球泉洞駅

質問2 令和2年7月洪水において、蒲島郁夫前熊本県知事は「川辺川ダムがあれば、被害を6割減らすことができた」と説明しましたが、その根拠を示してほしい

国土交通省は、川辺川ダムによる洪水調節で、被害が6割減らせることを示す責任がある

具体的な検討や洪水調節の計算がないのに、被害を6割減らせるなどと説明をすることは無責任な行政であると同時に、川辺川ダムの計画を白紙に戻す必要がある

質問3 球磨川河川整備計画において、横石洪水基準点の計画流量は8,200m³/秒とされていますが、これを瀬戸石ダム地点に換算すれば7,200m³/秒となります

一方で、瀬戸石ダムの設計洪水流量は6,000m³/秒であり、超過分の1,200m³/秒は、どのような対応をされるのか

国土交通省は、河川整備計画に基づいた治水対策を実施するのであれば、瀬戸石ダムを撤去するのが妥当ではありませんか

瀬戸石ダム流量の計算

横石地点 流域面積 1,856km² 計画流量 8,200m³/秒

瀬戸石地点 流域面積 1,629km²

換算流量=8,200×1,629÷1,856=7,197m³/秒

質問4 国土交通省は川辺川流水型ダムで環境への影響を最小限に留めるとの説明を繰り返してきた

しかしながら、先立って実施された益田川ダム(島根県)や最上小国川ダム(山形県)などの流水型ダムでは、鮎が減った洪水後、いつまでも濁りが続くなどの苦情がでています

国土交通省は、なぜ実際に施工された流水型ダムの実例を紹介しないのですか

足羽川ダム(福井県)など完成もしていないダムの例をあげている

質問5 球磨川の治水対策として「ダムが最も有効」とした
検討の過程で、河川掘削工法を不抽出にした理由は何か

河川を改修するに際し、掘削する工法は最も一般的であり
経済性にもすぐれている
環境への影響も少ない

国土交通省が「川底に人吉層があるので掘れない」という
理由は理解できない